

教科教育法履修学生を対象とした教科 「体育」が与えた影響についての考察

—S大学を対象とした知見—

永島 昇太郎⁽¹⁾ 長谷 孝治⁽²⁾

Consideration about the consequence of the subject “gymnastics” for a subject teaching-methods completion student having given.

—knowledge for S university—

NAGASHIMA, Syotarou⁽¹⁾ HASE, Kouji⁽²⁾

Abstract

The student who will aspire after the health-and-physical-education teacher in a secondary education organization at S university in the future as a student of the subject “gymnastics” of the secondary education till then, It turned round from experience about having received the lesson of the subject “gymnastics” with what kind of “target” and a “intention” daily, and as a result of investigating having what kind of sense of values about the subject “gymnastics” as an educator further, the female showed the value higher than a male about the target.

Moreover, about the male intention, it was imagined that there was a posture of participation highly motivated in a subject “gymnastics.”

-
- (1) 尚美学園大学総合政策学部 非常勤講師 (帝京大学医療技術学部スポーツ医療学科 講師)
Shobi University Comprehensive Policy Faculty Part-time Teacher
(Teikyo University Medical Technology Faculty Sport Medical Subject-of-Study Lecturer)
- (2) 東京都立足立東高等学校 主幹教諭
Tokyo Metropolitan Adachi East High School Chief Editor Teacher

要 約

S大学で将来的に中等教育機関での保健体育科教員を志す学生がそれまでの中等教育の教科「体育」の学習者として、日常的に教科「体育」の授業をどのような「目標」や「志向」を持って受けていたのかについて経験から振り返り、さらに、教育者として教科「体育」についてどのような価値観を持っているのか調査した結果、目標については、女子が男子よりも高い値を示した。

また、男子の志向については、教科「体育」に意欲的な参加の姿勢があった。

キーワード

体育授業 (Gymnastics lesson)

学習目標 (Study target)

学習志向 (Study intention)

はじめに

S大学では2007年にライフマネジメント学科を開設した。その中でのカリキュラムの一つに、保健体育科教員の養成を行うものがあり、将来的に中等教育機関での保健体育科教員を志す学生の入学が見られるようになった。

本研究では、その者たちがそれまでの中等教育の教科「体育」の学習者として、日常的に教科「体育」の授業をどのような「目標」や「志向」を持って受けていたのかについて経験から振り返り、さらに教育者として教科「体育」に対して、どのような価値観を持ってるのかについて考察する事を目的とする。

方法

対象をS大学・学生、保健体育科教育法Ⅱ、保健体育科教育法Ⅲの受講学生（36名 有効回答数31名 内訳 男子20名 女子11名）とし、教科「体育」に関する「目標」と「志向」についてアンケートを行い、両者間の教科「体育」における捉え方の比較、グループ毎の項目の比較、相関係数でのグループの比較をそれぞれ行った。

なお、統計処理はいずれの回答についても数値化し、IBM社SPSS Ver.22を用いてt検定を行った。

「目標」、「志向」の設定

[目標]

高田ら⁽¹⁾の「体育授業評価表」を用いて、「できる」という運動目標、「まもる」という社会的行動目標、「たのしむ」という情意目標、「まなぶ」という認識目標とそれぞれ設定した。

[志向]

谷島・新井ら⁽²⁾の「学習目標志向測度」を用いて、「課題内容を理解すること、課題そのものへの興味の追求を目指す傾向」の課題志向、「自己の向上、自己の挑戦のための学習を目指す傾向」の自己志向、「友達との励ましあいや、助け合いを重視する親和的傾向」の協同志向を、「周りと競い合うことにより、友達と切磋琢磨していこうとする傾向」の競争志向、それぞれ設定した。

男女間での比較

[目標]

運動目標、社会的行動目標、情意目標、認識目標、目標総計の全てにおいて、男子よりも女子が高い値を示した。(Table.1)

両者間のそれぞれの項目間についてt検定を行ったところいずれの項目にも有意差が見られなかった。

Table.1 性別による「目標」の平均値とSDおよびt検定の結果

	男子 (n=20)		女子 (n=11)		t 値
	M	SD	M	SD	
運動目標	12.70	1.949	13.46	1.695	1.077
社会的行動目標	12.90	1.774	13.46	1.128	0.934
情意目標	12.50	2.039	13.46	1.635	1.332
認識目標	12.90	1.917	13.64	1.629	1.076
目標総計	51.00	5.582	54.00	5.404	1.448

[志向]

課題志向、自己志向、協同志向、志向総計において男子よりも女子が高い値を示したが、競争志向については男子が女子よりも高い値を示した。(Table.2)

両者間のそれぞれの項目間についてt検定を行ったところ、協同志向で有意差が見られた($t=2.098, df=29, p<.05$)。

この結果から、女子は男子よりも教科「体育」において親和的傾向が高いと解釈することができた。

Table.2 性別による「志向」の平均値とSDおよびt検定の結果

	男子 (n=20)		女子 (n=11)		t 値
	M	SD	M	SD	
課題志向	18.10	2.751	19.73	3.228	1.482
自己志向	21.95	2.856	22.82	3.488	0.749
協同志向	16.85	2.059	18.36	1.629	2.098*
競争志向	14.55	3.137	13.64	1.804	0.855
志向総計	71.45	8.835	74.55	7.394	0.986

* $p<.05$

男女別の項目の比較

[目標]

項目毎の平均値を比較したところ、男子では社会的行動目標と認識目標の値が高く、それに次いで運動目標、情意目標の順に高い値を示した。項目間でのt検定の結果では有意差は見られなかった。

また、女子では認識目標の値が高く、その他の運動目標、社会的行動目標、情意目標は同じ値を示した。項目間でのt検定の結果では有意差は見られなかった。(Fig.1)

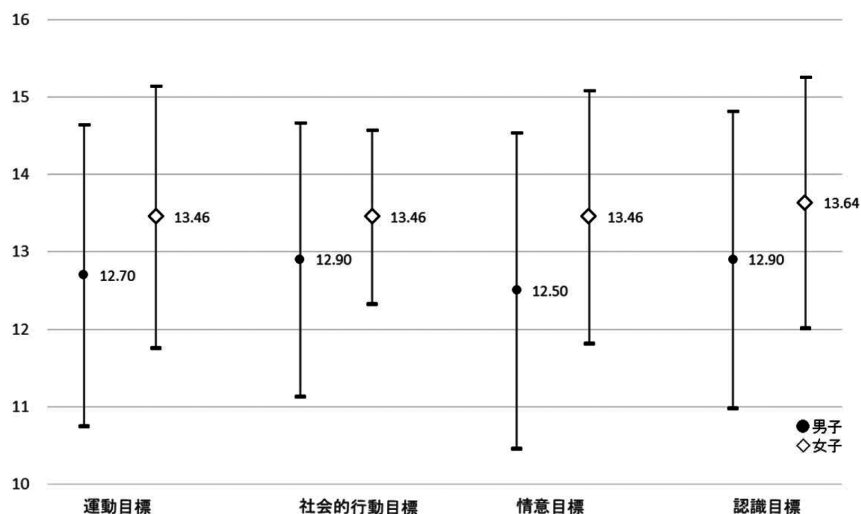


Fig. 1 「目標」項目の値および有意差

[志向]

項目毎の平均値を比較したところ、男子では課題志向と自己志向 ($t=5.887, df=19, p<.001$)、課題志向と協同志向 ($t=3.387, df=19, p<.01$)、課題志向と競争志向 ($t=5.262, df=19, p<.001$)、自己志向と協同志向 ($t=8.291, df=19, p<.001$)、自己志向と競争志向 ($t=14.091, df=19, p<.001$)、協同志向と競争志向 ($t=3.708, df=19, p<.01$) と自己志向、課題志向、協同志向、競争志向の順に高い値を示し、それぞれの項目間に有意差が見られ、特に自己志向については顕著に高い値を示した。

また女子では、課題志向と協同志向を除き、課題志向と自己志向 ($t=2.437, df=10, p<.05$)、課題志向と競争志向 ($t=7.810, df=10, p<.001$)、自己志向と協同志向 ($t=4.252, df=10, p<.001$)、自己志向と競争志向 ($t=9.552, df=10, p<.001$) と、協同志向と競争志向 ($t=8.740, df=10, p<.001$) のそれぞれに項目間に有意差が見られ、自己志向、課題志向、協同志向、競争志向の順に高い値を示し、特に自己志向については、顕著に高い値を示した。(Fig.2)

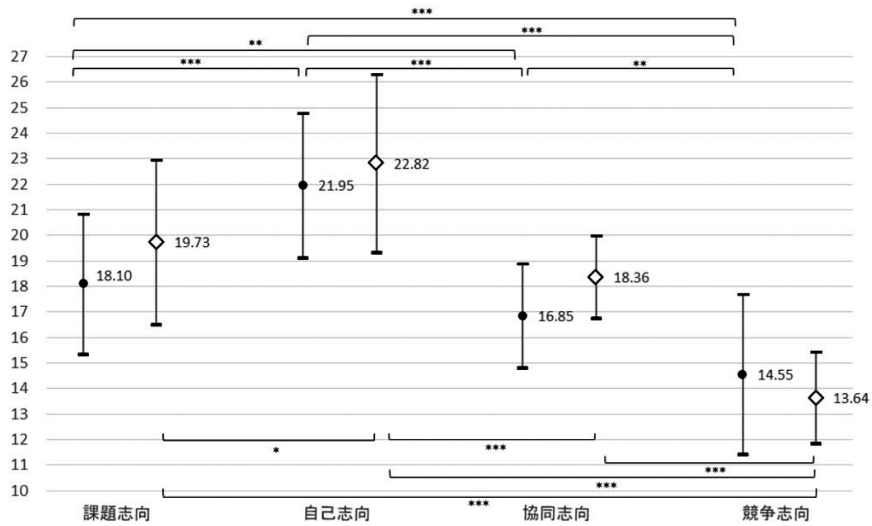


Fig. 2 「志向」項目の値および有意差

相関係数での男女間の比較

[目標]

男子は女子よりも全てに値が低く、男子では運動目標と社会的行動 ($r=.770, p<.01$)、運動目標と情意目標 ($r=.712, p<.05$)、運動目標と認識目標 ($r=.718, p<.05$)、社会的行動目標と情意目標 ($r=.690, p<.05$)、情意目標と認識目標 ($r=.782, p<.01$) と、社会的行動目標と認識目標を除き、それぞれに相関関係がみられた。

また、女子では運動目標と情意目標 ($r=.645, p<.01$)、社会的行動目標と認識目標 ($r=.768, p<.01$) に相関関係がみられた。(Table.3)

Table.3 「目標」の相関係数

上段：相関係数
下段：有意確率

相関係数 有意確率	男子 (n=20)				女子 (n=11)			
	運動目標	社会的行動目標	情意目標	認識目標	運動目標	社会的行動目標	情意目標	認識目標
運動目標		.770**	.712*	.718*		.132	.645**	.386
社会的行動目標	.006		.690*	.589	.578		.102	.768**
情意目標	.014	.019		.782**	.002	.669		.183
認識目標	.013	.057	.004		.093	.000	.441	

* $p<.05$ ** $p<.01$ *** $p<.001$

[志向]

男子では課題志向、自己志向、協同志向、競争志向のそれぞれの間には有意な相関関係が見られなかった。

女子では、課題志向と自己志向 ($r=.456, p<.05$)、課題志向と協同志向 ($r=.802, p<.01$)、課題志向と競争志向 ($r=.481, p<.05$)、自己志向と競争志向 ($r=.697, p<.01$) と、協同志向と競争志向 ($r=.494, p<.01$) のそれぞれに、有意な相関関係が見られた。(Table.4)

Table.4 「志向」の相関係数

上段：相関係数
下段：有意確率

相関係数 有意確率	男子 (n=20)				女子 (n=11)			
	課題志向	自己志向	協同志向	競争志向	課題志向	自己志向	協同志向	競争志向
課題志向		.217	.344	.600		.456*	.802**	.481*
自己志向	.521		.242	.418	.043		.410	.697**
協同志向	.300	.474		.458	.000	.072		.494*
競争志向	.051	.201	.157		.032	.001	.027	

* $p<.05$ *** $p<.001$

考察

[男女間での比較]

目標については、全ての項目において男子よりも女子の方が高い値を示し、特に「学ぶ」という認識目標が高いものの、男女間の有意な差は見られないことから、目標については男女間に差がないことが伺える。

志向については、競争志向を除き女子の値を示している。また、女子の値が男子よりも「親和的傾向」である協同志向が高く、友達との励ましあいや助け合いを重視する意識が高いことが伺える。

[男女毎の項目の比較]

目標について、男子は社会的行動目標及び認識目標が高い値を示し、次いで認識目標、情意目標の順で高い値を示したものの、項目間での有意差は見なかった。また、女子では認識目標が高い値を示し、運動目標、社会的行動目標、情意目標については同じ値を示し、項目間での有意差は見なかった。

志向については、男女共に自己志向、課題志向、協同志向、競争志向の順に高い値を示し、両者ともに自己志向と競争志向は、他の項目間に有意差が見られ、特に自己志向については、両者ともに顕著に高い値を示していることから、自己の向上や自己の挑戦のための学習をしたり、課題内容の理解や、課題そのものへの興味の追求を目指す傾向が高いということが伺えた。

[相関係数での男女の比較]

目標では、男子は女子よりも全てに値が低かったものの、運動目標では社会的行動目標、情意目標、認識目標と、社会的行動目標では情意目標と、情意目標では認識目標と、それぞれに相

関が見られた、また、女子については、運動目標と情意目標、社会的行動目標と認識目標のそれぞれに相関が見られた。

これらのことから男子については、運動目標と社会的行動目標から「できる」と「まもる」ということと、情意目標と認識目標から「たのしむ」と「まもる」ことを、女子については、運動目標と情意目標から「できる」と「たのしむ」ことと、社会的行動目標と認識目標から「まもる」と「まなぶ」ということをそれぞれ関連づけていたことが伺えた。

志向では、男子は女子よりも競争志向を除く全てに値が低く、それぞれの項目間での相関が見られなかったが、女子については、自己志向と協同志向を除く全ての項目間で相関が見られた。特に課題志向と協同志向、自己志向と競争志向の間にそれぞれ相関が見られることから、課題そのものへの興味の追求を目指すことと、友達との励ましあいや、助け合いを重視する親和的な活動を関連づけていたり、自己の向上、自己の挑戦のための学習を目指しつつ、友達と切磋琢磨していることが伺えた。

まとめ

女子については目標ではそれぞれの項目間での差は見られなかったが、男子よりも高い値を示し、特に「たのしむ」と「できる」、「まもる」ことについて関連づけていたといえる。

また、志向について男子では、課題内容を理解することや、課題そのものへの興味の追求を目指すことと、友達との励ましあいや、助け合いを重視する親和的な態度を関連づけていることから、集団での学びの姿勢が見られ、教科「体育」に意欲的な参加の姿勢があったことが考えられる。

今後の課題としては、経験から得られている教科「体育」の見知を広げるために、自身が教育実践者として、学習指導要領で示されている「生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することを重視」することや、「心と体をより一体としてとらえ、健全な成長を促すことが重要」であるといった基本方針を理解し、中等保健体育教員を目指す者として、教科「体育」に求められている教育の内容についての理解を深め、その指導をすすめるための能力を身に付ける必要があるといえる。

参考文献

- (1) 高田俊也・岡沢祥訓・高橋健夫 (2000), 「態度測定による体育授業評価法の作成」, スポーツ教育学研究, 20-2, 31-40
- (2) 谷島弘仁・新井邦二郎 (1994), 「学習の目標志向の発達の検討および学業達成との関連」, 筑波大学心理学研究, 28-2, 136-137
- (3) 永島昇太郎・本間啓二・永井大樹 (2005), 「体育授業が生徒のどのような学習効果をあたえるか」, 平成17年度 日本体育学会 発表
- (4) 永島昇太郎 (2014), 「教科『体育』が与えた教育職を目指す学生への影響についての一考察 T大学の学生を対象とした経験からの知見」, 帝京大学スポーツ医療研究 第6巻, 1-6
- (5) 中央教育審議会 (2004), 「今後の教員養成・免許制度の在り方について」

